

くらしの目線で市政を変える

こんにちは **日本共産党** **西野さち子** です！
京都市会議員

発行：2025年10月12日 連絡先：京都市伏見区新町10丁目3 8 1 日本共産党伏見地区委員会 Tel:075(611)9135 FAX:075(602)9117



58億円の黒字は市民生活応援に

代表質問に
立ちました



9月京都市会
代表質問中継

西野 さち子 (共産 伏見区)

9月市会の各会派の代表質問が行われました。日本共産党からは西野さち子、山田こうじ議員（右京区）、山本陽子議員（山科区）が質問しました。まず初めに西野さち子は、「2022年度77億円、2023年度88億円に引き続く58億円の黒字です。前市長による財政危機論は、財政見通しが大幅に違っていたことを証明しています。」として、「黒字分は市民に還元すべき」と

質しました。決算では過去負債の返済に35億円も回しています。毎年35億円も返済するのではなく、年5億円程度にして、まずは敬老乗車証をもとに戻すことや子どもの医療費の無料化の拡大などに回すべきです。また、今年は国民健康保険料が10%以上の値上げになり、今後5年間連続値上げが予定されていますから、「国保の繰り入れに回すべき」と質しました。また、北陸新幹線京都地下延伸計画について、「市民合意は得られていない」「無駄に判断を引き延ばすのではなく、今こそ中止を求めるべき」と質しましたが、市長は答弁を避けました。また、生活保護の減額に対して最高裁判所が国を違法と断罪しましたから「上告を断念し、謝罪と被害回復を早急に」と求めました。醍醐コミュニティバスの日曜祝日の運休について「民間任せにしてきた京都市の責任は重大」「市の責任で運休をやめるための支援を」求め、東部クリーンセンター跡地について、図書館、老人保養センター、スケボー公園の設置を求めました。

議員日誌

政策提案を発表「魅力ある市営住宅 安心して住み続けられる地域づくりにむけて」

共産党市会議員団は、9月26日に記者会見を開き、住まいは人権の立場での市営住宅の在り方についての政策提案を発表しました。市営住宅が今、大きく変質させられてきています。住みにくく入居しにくい市営住宅の改善が必要です。空き家の改修は5年前の半数になっていて、空き家だらけです。シャワー設置、畳、ふすまなどの取り換えも市がすべきです。また、便利な場所で人気のある市営住宅の空き室を安い家賃で民間の不動産屋に貸し、不動産屋は好きなように改修し、高い家賃で貸し付けています。また、老朽化した市営住宅の建て替えでは、入居している世帯数しか造らず、部屋の広さも畳が小さく狭くしています。これまでの家財道具が入らない状態になっています。单身者用の住戸を増やし、高齢者も若年者も入れるようにすべきです。そして、改悪された家賃減免制度をもとに戻すべきです。詳しい内容は、市会議員団のホームページをご覧ください。ご一緒に実現しましょう。



市政報告・予算要求懇談会開く

共産党市会議員団は、「2024年度決算と9月市会の焦点について」市政懇談会を開きました。加藤あい幹事長から、「決算年度は、共産党議員団が子育て支援条例を提案したことや、市長選挙や住民運動で、いくつもの要求が前進し、市長は職員削減を前市長の時と同じペースで削減を続けるべきだとは思っていないと答弁せざるを得なかった」ことなどを報告しました。一方で敬老乗車証制度改悪や民間保育園補助金削減や各種公共料金の値上げは継続し、中学校給食は巨大給食工場の委託契約が議案として今議会に提案されたことも報告しました。また、来年度予算に向けての予算要望書の案をお示しし、市民の皆さんの要望も取り入れて完成させる立場で提案しました。そして、記者会見をして市長にも提案した市営住宅の政策も発表しました。会場からは「要求実現に向けて頑張りたい」との声も出されました。

